

第二松江小学校 学校応援団実践報告書

1. 校長及びコーディネーター氏名

第二松江小学校長 赤津 俊也

コーディネーター 佐藤 大輔（本校 PTA 会長）

2. 学校応援団の位置づけと活動内容

本校の学校経営は、目の前にある教育課題を直視し、その課題解決策を講じて絶えず「具体的な手立てと成果」を確認しながら、自律的学校経営の実現を目指しています。つまり、自己満足や抽象的な言辞だけに頼ることではなく、結果的に学校がやる体制を意図的につくり出す必要があります。そのために、学校選択制をはじめ学校評議員制度とともに、この「学校応援団」である地域教育力の活用を積極的に図りながら、子ども・保護者・地域に開かれた学校づくりを進めています。

【主な活動内容】

(1) 安全・安心にかかわる応援団

- ・「くすのき五葉会」による登下校の見守り活動。
- ・PTAによる登校班での登校支援、旗振り当番での交通安全の見守り。



(2) 学習活動にかかわる応援団

- ・伝統工芸体験の協力。（地元の染物工場）
- ・「くすのき五葉会」による昔遊び等生活科での協力。
- ・調理実習や料理教室等に協力していただく保護者ボランティア「食育パートナー」の活動。食育の授業として実施した「おすましランチ」（5年生が洋食のテーブルマナーを学ぶ授業）や「おすまし御膳」（6年生が和食のしきたりを学ぶ授業）などで栄養教諭のサブティーチャーとして活動していただきました。

(3) 読書科にかかわる応援団

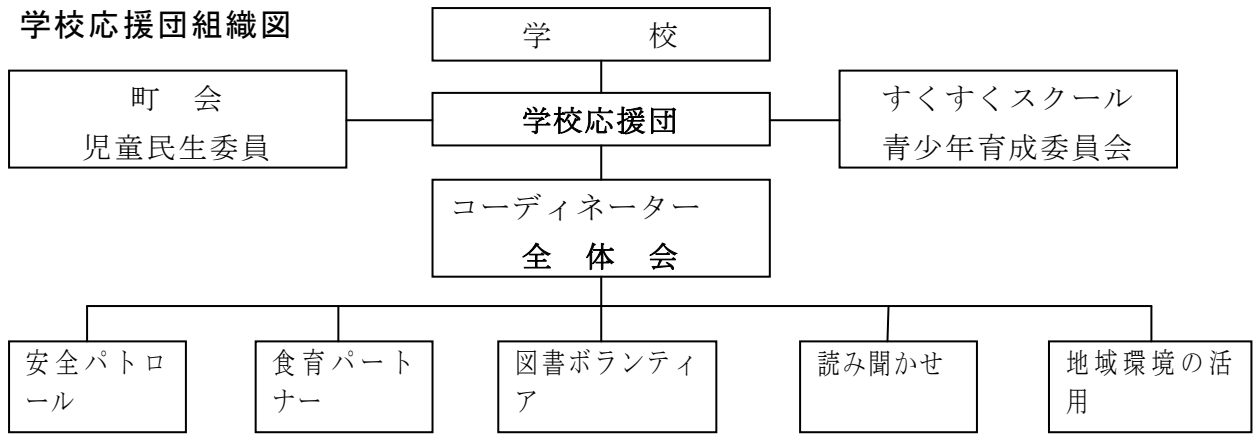
- ・学校図書館の整備と啓発を推進する、保護者からなる「図書館ボランティア」の活動。①読み聞かせグループ、②補修グループ、③図書室装飾グループと三つのグループに分かれて計画的・継続的に活動していただきました。



(4) すくすくスクールにかかわる応援団（地域ボランティア）

- ・日本舞踊教室、将棋教室、折り紙教室、書道教室、卓球教室と習字教室（毛筆）などの活動に加え、昨年度より影絵教室を新設するなど、すくすくスクールのサポートセンターの協力を得て活動を充実させています。

3. 学校応援団組織図



4. 今年度の成果と今後の課題

- ・地域の諸団体や個々のボランティアによる協力体制はすでに整っており、その取り組みは充実してきた。今後も、保護者がボランティアとして主体的に学校教育にかかわる機会を模索し、保護者が参画できる体制づくりを進めていきたい。
- ・学校応援団の活動内容の拡大を図っていこうとするだけでは経営体としての学校の質的向上は期待できない。「学校を開く」ことを充実させたことで、学校の体質や経営力（学校力）はどう変化してきたのか、教職員の意識や子どもへの教育効果等、その成果を具体的に検証する事業評価を加味した取り組み体制を確立していきたい。

5. コーディネーターより

今まで本校で培ってきた児童の下校の見守り、図書ボランティア、食育パートナーなどの活動を行うにあたり、数十名の方々にご協力いただいた。来年度はさらに多様な活動の展開が予想される。学校のニーズに応じていけるよう連絡を密にとっていきたい。

6. 学校長より

本校では学校応援団の連携体制を総花的や内容・方法別にとらえるのではなく、学校経営上の観点から三つの視点で構造化して取り組んできた。ゆくゆくは各学校で「横並び現象」となることも予想できるが、本校においては学校経営を質的に高めていくための柱として、今後も下記の位置付けで進める。

(1) 教育指導内容、指導方法、教材の充実や改善のため

地域の伝統工芸体験、障害者ボランティア団体による体験学習、環境教育での指導（総合的な学習の時間） 町探検での店舗・工場等の見学（社会科） 昔遊びでの交流（生活科）

教師のカリキュラム開発能力、教材開発能力の育成
〔流動的な内容〕

(2) 学校の社会的位置づけ（世間を開く学校）のため

くすのき五葉会による安全パトロール
二松会・子ども会による学校行事への支援・協力

管理職・教師の意識改革
〔開かれた学校のための重点内容〕

(3) 区施策の実現、重視される教育の充実のため

「図書ボランティア」 図書館整備・啓発・読み聞かせ
「食育パートナー」による調理実習や食育啓発活動

区施策に対する意識改革、管理職の経営能力開発
〔施策と学校とを一体化させる内容〕